

市町村名	那覇市							
沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【後年度発現事業】								
事業名	国際通りトランジットモールビジョンづくり支援事業 (H29事業番号3-15)				沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-3-(8)-イ 商店街・中心市街地の活性化と商業の振興		
担当部課名	経済観光部	なはまち振興課	事業実施 年度	平成 29	平成 29	年度 沖縄振興基本方針 該当箇所		
事業内容	観光客の誘客及び地元客の呼び戻しを図り、中心商店街の賑わいを創出するため、今後の国際通りトランジットモールのあり方について、アンケート調査や商店街等関係者による会議等を開催、ビジョンを策定し、商店街の活性化と商業の振興を図る。							
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他()							
事業期間中の 予算額・執行額 【単位:千円】		H29年度	○年度	○年度	○年度	合計		
	A. 予算現額	3,000	—	—	—	3,000		
	B. 執行済額	2,951	—	—	—	2,951		
	うち 交付金充当額	2,360	—	—	—	2,360		
	執行率(%) (B/A)	98.4%	—	—	—	98.4%		
	執行状況の説明	国際通りトランジットモールビジョンづくり支援事業として業務委託契約し、実績払いで執行した。 残額については、企画提案(プロポーザル形式)による契約金額の差額によるものである。						
事業期間中の 活動目標	活動目標(指標)		達成状況					
				H29年度	○年度	○年度	○年度	○年度
	国際通りトランジットモールのビジョンづくりの 策定支援の実施	目 標	ビジョン策定 支援	—	—	—	—	
		実 績	ビジョン策定 支援	—	—	—	—	
		目 標						
		実 績						
		目 標						
		実 績						
事業期間中の 成果目標	成果目標(指標)		進捗状況					
				H29年度	○年度	○年度	○年度	○年度
	国際通りトランジットモールのビジョンづくりの 策定	目 標	ビジョン策定	—	—	—	—	
		実 績	ビジョン策定	—	—	—	—	
		目 標						
		実 績						
		目 標						
		実 績						

事業完了後の取り組み

事業完了後の成果目標		成果目標（指標） □ 中期にわたる事業効果 ■ 後年度に発現する事業効果		達成／進捗状況				
				〇年度	〇年度	〇年度	R3年度	R4年度
トランジットモールの取り組みに対する満足度をアンケート調査で検証する。		目 標	—	—	—	80%以上	80%以上	
		実 績	—	—	—	79.4%		
		目 標						
		実 績						
状況説明		【R1年度】 ・国際通りでのイベント開催にあたり、法規制や安全対策を整理しながら実証実験に向け検討を行った。 【R2年度】 ・新型コロナウイルス感染症拡大の中、安全に実施できるトランジットモールの運用の検討を行った。 【R3年度】 ・来街者に実施した「トランジットモールの実施により賑わいや交流ができて良いと思うか」という設問に対して「思う」「やや思う」と答えた人の割合は79.4%となり、目標にほぼ近い数値となった。						
【完了後】事業効果等の確認 (施設利用状況、効果発現状況、外部環境の変化等)				【完了後】改善措置等の検討 (事業効果の更なる向上等)				
【R1年度】 ・那覇市国際通り魅力創出検討委員会において、実証実験のためイベント企画を立案し、クラフトビール祭りを開催。 【R2年度】 ・新型コロナウイルス感染症拡大の影響でトランジットモールの中止が相次いだが、国交省の道路占用基準緩和措置を活用し「密」を回避しながら飲食できるスペースを通りに設けるマルシェ（オープンカフェ）事業を実施した。 【R3年度】 那覇市国際通り魅力創出検討委員会を2回開催し、トランジットモールのさらなる活用について課題と方向性の確認を行った。				【R1年度】 ・イベントの実施にあたり、法規制や安全対策上の課題が見えてきたことから、課題を整理する必要がある。 【R2年度】 ・コロナ禍でのトランジットモールを活用したイベントを継続して実施するため関係機関との連携を強化する。 【R3年度】 ・引き続きマルシェ（オープンカフェ）事業に取り組みながら、トランジットモールのマンネリ化を打開する新しいイベントを実施する。				
今後の取り組み方針（関連・同種事業へのフィードバック等）								
【R1年度】 ・イベント実施における法規制や安全対策上の課題や留意点について、警察を含めた関係機関で協議を行い対応策の検討を進める。 【R2年度】 ・イベント実施における法規制や安全対策上の課題や留意点について、警察を含めた関係機関で協議を行い対応策の検討を進める。 【R3年度】 ・イベント実施における法規制や安全対策上の課題や留意点について、警察を含めた関係機関で協議を行い対応策の検討を進める。								

市町村名	那覇市							
沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【後年度発現事業】								
事業名	商店街アーケードビジョンづくり支援事業 (H29事業番号3-16)				沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-3-(8)-イ 商店街・中心市街地の活性化と産業の振興		
担当部課名	経済観光部	なはまち振興課	事業実施 年度	平成 29	～平成 29	年度 沖縄振興基本方針 該当箇所 Ⅲ-1-(7)		
事業内容	誰もが安全・安心・快適に買い物や散策が楽しめる魅力ある中心商店街の商環境整備のため、老朽化したアーケードの権利関係や現地調査、関係者へのアンケート調査などを行い、商店街関係者によるアーケードビジョンづくりを支援する。							
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他()							
事業期間中の 予算額・執行額 【単位:千円】		H29年度	○年度	○年度	○年度	合計		
	A. 予算現額	6,915	—	—	—	6,915		
	B. 執行済額	6,878	—	—	—	6,878		
	うち 交付金充当額	5,502	—	—	—	5,502		
	執行率(%) (B/A)	99.5%	—	—	—	99.5%		
	執行状況の説明	商店街アーケードビジョンづくり支援事業として業務委託契約し実績払いで執行した。予算残額については、先進地視察の旅費の実績による残額となっている。						
事業期間中の 活動目標	活動目標(指標)		達成状況					
				29年度	○年度	○年度	○年度	○年度
	平和通り商店街アーケードのビジョンの策定支援の実施	目 標	ビジョン策定支援実施	—	—	—	—	
		実 績	ビジョン策定支援実施	—	—	—	—	
		目 標						
		実 績						
		目 標						
		実 績						
事業期間中の 成果目標	成果目標(指標)		進捗状況					
				29年度	○年度	○年度	○年度	○年度
	平和通り商店街アーケードのビジョンの策定(商店街組織による基本方針の決定)	目 標	ビジョン策定	—	—	—	—	
		実 績	ビジョン策定	—	—	—	—	
		目 標						
		実 績						
		目 標						
		実 績						

事業完了後の取り組み

成果目標(指標)		達成／進捗状況					
		H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R5年度 目標/発現年度	
事業完了後の成果目標	☐ 中期にわたる事業効果 ☒ 後年度に発現する事業効果						
	・平和通り商店街の老朽化したアーケードの撤去 ・代替案の整備開始	目 標	—	—	—	—	平和通り商店街のアーケードの撤去、代替案の整備開始
		実 績	—	—	—	—	
		目 標					
実 績							
状況説明	【H30年度】 ・アーケードビジョン策定後のアーケード撤去に向けた平和通り商店街関係者による合意形成に向けて継続協議中。 【R1年度】 ・ビジョンを具体的な計画とするため、平和通り商店街振興組合理事会、総会での検討を継続している。 【R2年度】 ・ビジョンを具体的な計画とするため、平和通り商店街振興組合理事会、総会での検討を継続している。 【R3年度】 ・ビジョンを具体的な計画とするため、平和通り商店街振興組合理事会、総会での検討を継続している。						

【完了後】事業効果等の確認 (施設利用状況、効果発現状況、外部環境の変化等)	【完了後】改善措置等の検討 (事業効果の更なる向上等)
【H30年度】 ・老朽化したアーケードの撤去に向けた平和通り商店街関係者による合意形成にあたっては、費用捻出の方法が課題となってくるとされる。	【H30年度】 ・平和通り商店街の合意形成を後押しするため、既存の老朽化したアーケードの撤去や再整備等に対し補助制度創設の検討が必要となる。
【R1年度】 ・平和通り商店街の取組を推進するため、市アーケード再整備等補助制度を創設した。	【R1年度】 ・ビジョンの目標達成に向け関係者の合意形成を構築するため、家主・地主等のさらなる参画を計り協議を進める必要がある。
【R2年度】 ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、その対策等が中心となったため、アーケード再整備等補助制度の活用について、協議を進めることができなかった。	【R2年度】 ・ビジョンの目標達成に向け関係者の合意形成を構築するため、家主・地主等のさらなる参画を計り協議を進める必要があったが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、その対策等が中心となったため、協議を進めることができなかった。
【R3年度】 ・想定していたよりも長いコロナ禍の影響(緊急事態宣言やまん延防止の適用)により、その対策等が中心となったため、アーケード再整備等補助制度の活用について、協議を進めることができなかった。	【R3年度】 ・ビジョンの目標達成に向け関係者の合意形成を構築するため、家主・地主等のさらなる参画を計り協議を進める必要があったが、想定していたよりも長いコロナ禍の影響(緊急事態宣言やまん延防止の適用)により、その対策等が中心となったため、協議を進めることができなかった。

今後の取り組み方針(関連・同種事業へのフィードバック等)

【H30年度】
・平和通り商店街のアーケードビジョン策定結果に基づき、ビジョン策定後5年後を目途に商店街による既存アーケードの撤去及び代替案、若しくは補助制度を活用した再整備とするのか平和通り商店街として基本方針の決定について合意形成が進むよう支援を行ないながら、新たな補助制度の創設に向け検討していく。

【R1年度】
・ビジョンに示す商店街の目指す姿のイメージから具体的な計画にするために、商店街関係者による協議及び合意形成を推進し、継続して助言等支援を行う。

【R2年度】
・新型コロナウイルス感染症の感染状況を鑑み、ビジョンに示す商店街の目指す姿のイメージから具体的な計画にするために、商店街関係者による協議及び合意形成を推進し、継続して助言等支援を行う。

【R3年度】
・新型コロナウイルス感染症の感染状況を鑑み、ビジョンに示す商店街の目指す姿のイメージから具体的な計画にするために、商店街関係者による協議及び合意形成を推進し、継続して助言等支援を行う。

市町村名	那覇市						
沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【後年度発現事業】							
事業名	首里金城町無電柱化推進事業 (H28事業番号繰越1ー43)				沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ウ 観光客の受入体制の整備	
担当部課名	都市みらい部	道路建設課	事業実施 年度	平成 25	～平成 28	年度 沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ-1-(1)
事業内容	電線類を地中化することで景観に配慮した昔ながらの風景を再生し、更なる観光地としての魅力向上を図る。						
実施方法	■ 直接実施 ■ 委託 □ 補助 □ 負担 □ その他()						
事業期間中の 予算額・執行額 【単位:千円】		25年度	26年度	27年度	28年	合計	
	A. 予算現額	5,000	10,500	7,000	9,500	32,000	
	B. 執行済額	5,000	3,726	584	5,882	15,192	
	うち 交付金充当額	4,000	2,981	466	4,705	12,152	
	執行率(%) (B/A)	100.0%	35.5%	8.3%	61.9%	47.5%	
	執行状況の説明	・H27年度は、地上機器設置予定箇所の土地所有者の内諾が得られなかったため翌年度に繰り越した。 ・H28年度は、概略設計において本地区特有の地形、狹隘道路、景観形成地区等により、各電線管理者との 配線計画調整に不測の期間を要したため繰り越した。					
事業期間中の 活動目標	活動目標(指標)		達成状況				
			○年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	電線共同溝詳細設計	目 標	—	1件	—	1件	1件
		実 績	—	1件	—	1件	1件
	電線類等移設補償(詳細設計)	目 標	—	—	2件	—	2件
		実 績	—	—	2件	—	1件
	電線共同溝概略設計委託発注	目 標	—	—	—	—	1件
		実 績	—	—	—	—	1件
事業期間中の 成果目標	成果目標(指標)		進捗状況				
			○年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	電線共同溝詳細設計	目 標	—	1件	—	1件	1件
		実 績	—	1件	—	1件	1件
	電線類等移設補償(詳細設計)	目 標	—	—	2件	—	2件
		実 績	—	—	2件	—	1件
	電線共同溝概略設計委託発注	目 標	—	—	—	—	1件
		実 績	—	—	—	—	1件

事業完了後の取り組み							
事業完了後の成果目標	成果目標(指標) □ 中期にわたる事業効果 ■ 後年度に発現する事業効果		達成／進捗状況				
			R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R7年度 目標/発現年度
	供用開始後1年目(令和7年度)の目標を以下のとおりとする。観光客へのアンケート調査等を実施し、観光地としての魅力が向上したか(80%以上)を含め、アンケート調査により、本事業の有り方を検証する。	目 標	—	—	—	—	80%以上
		実 績	—	—	—	—	
		目 標					
		実 績					
	状況説明	【H30年度】 ・当該無電柱化事業とリンクする街路事業の進捗が遅れているため、当該事業を中止することとするが、継続して無電柱化を推進するため、沖縄ブロック無電柱化推進協議会で決定されるR3～R7年度までの5カ年間計画で整備する路線として位置づけ、街路事業として整備することとした。 【R2年度】 ・沖縄ブロック無電柱化推進協議会にてR3～R7年度までの5カ年間計画を検討中である。 ・上記計画に位置付け次第、街路事業にて事業を推進する計画である。 【R3年度】 ・沖縄ブロック無電柱化推進計画(8期：R3～R7)の合意区間に決定した。					
【完了後】事業効果等の確認 (施設利用状況、効果発現状況、外部環境の変化等)			【完了後】改善措置等の検討 (事業効果の更なる向上等)				
【H30年度】 ・当該事業を街路事業に引継ぎ整備し、電線類等無電柱化の発現事業効果はR7年度予定とする。 【 年度】 ・ 【 年度】 ・			【H30年度】 ・景観に配慮した昔ながらの風景を再生し、認知度向上や魅力を発信、アクセス方法の紹介に努める。 【 年度】 ・ 【 年度】 ・				
今後の取り組み方針(関連・同種事業へのフィードバック等)							
【R3年度以降】 ・沖縄ブロック無電柱化推進協議会にてR3～R7年度までの5カ年間計画に位置付け、引き続き街路事業にて事業を推進する。 【 年度】 ・ 【 年度】 ・							

市町村名	那覇市						
沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【後年度発現事業】							
事業名	牧志公設市場(衣料部・雑貨部)活性化基礎調査(H28(繰越)事業番号3-12)				沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(8)-イ 商店街・中心市街地の活性化と商業の振興	
担当部課名	経済観光部	なはまち振興課	事業実施年度	平成28 ~ 平成29 年度	沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-1-(1)	
事業内容	牧志公設市場(衣料部・雑貨部)の活性化を図ることを目的とし、施設利用状況等の把握、利用者実態調査等を踏まえ、今後の課題及び方向性を検討するための基礎調査を実施する。						
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他()						
事業期間中の 予算額・執行額 【単位:千円】		28年度	29年度	30年度	元年度	合計	
	A. 予算現額	4,860,000	—	—	—	4,860,000	
	B. 執行済額	4,617,000	—	—	—	4,617,000	
	うち 交付金充当額	3,693,000	—	—	—	3,693,000	
	執行率(%) (B/A)	95.0%	—	—	—	95.0%	
	執行状況の説明	・市場使用者の事業実態等に係る意見の取りまとめなどに不測の日数を要したため、平成29年度へ事業を繰越した。 ・最終的な執行率は95%となり、概ね計画的に執行できた。					
事業期間中の 活動目標	活動目標(指標)		達成状況				
			28年度	○年度	○年度	○年度	○年度
	・施設利用状況調査の実施	目 標	基礎調査の実施	—	—	—	—
		実 績	基礎調査の実施	—	—	—	—
	・利用者実態調査の実施	目 標	基礎調査の実施	—	—	—	—
		実 績	基礎調査の実施	—	—	—	—
		目 標					
		実 績					
事業期間中の 成果目標	成果目標(指標)		進捗状況				
			28年度	○年度	○年度	○年度	○年度
	調査報告書の完成	目 標	報告書の作成	—	—	—	—
		実 績	報告書の完成	—	—	—	—
		目 標					
		実 績					
		目 標					
実 績							

事業完了後の取り組み

成果目標(指標)		達成／進捗状況					
		30年度	元年度	2年度	3年度	3年度 目標/発現年度	
事業完了後の成果目標	☐ 中期にわたる事業効果 ☒ 後年度に発現する事業効果						
	基礎調査及び本市のファシリティマネジメント推進方針等に基づき、牧志公設市場(衣料部・雑貨部)の今後の方向性を定める。	目 標	今後の方向性の検討	今後の方向性の決定	今後の方向性の決定	年度末をもって廃止	通行量(牧志公設市場衣料部前) 6,000人
		実 績	今後の方向性の検討	今後の方向性の検討	R3年度末をもって廃止とする方針決定	年度末をもって廃止	
		目 標					
	実 績						
状況説明	【30年度】 ・牧志公設市場(衣料部・雑貨部)の今後の方向性を定めるため、「牧志公設市場(衣料部・雑貨部)のあり方検討事業」を実施した。 【元年度】 ・平成30年度に引き続き、意見交換会、市民ワークショップを開催し、市場使用者、市場周辺事業者、土地所有者等関係者より意見聴取を実施。 ・那覇市中心市街地活性化委員会に諮問し、衣料部・雑貨部の今後の方向性策定にあたり審議を重ね答申を得た。 ・令和2年2月、衣料部・雑貨部の今後の方向性を確定する上で基本的な考え方を決定した。 【2年度】 ・基礎調査の結果及び審議会答申を踏まえ、令和3年度末をもって市場を廃止とする方針を決定した。 ・市場事業者へ廃止の方針を説明し、移転補償額算定調査を実施した。 【3年度】 ・移転補償契約に基づき、市場事業者へ移転補償を実施 ・令和3年度末をもって公設市場廃止。 ・建物は民間企業へ有償で譲渡した。						

【完了後】事業効果等の確認 (施設利用状況、効果発現状況、外部環境の変化等)	【完了後】改善措置等の検討 (事業効果の更なる向上等)
【30年度】 ・市場使用者、市場周辺事業者及び市民等から丁寧に意見を聴取する必要がある、その期間を十分に確保するため、令和元年度へ事業を繰越した。	【30年度】 ・市場使用者からの意見聴取にあたり、意見交換会では意見の集約が困難である。別の手法を検討する必要がある。
【元年度】 ・公設市場としての機能の廃止による市場使用者への支援や、市場以外の機能(トイレ、会議室等)について継続検討等の課題がある。	【元年度】 ・市場使用者への移転補償及び商業支援の実施の検討、建物の有償譲渡に向けた作業準備、市場以外の機能継続及び市場施設の継続利用について、土地所有者の意向を踏まえた検討が必要である。
【2年度】 ・市場廃止に伴う移転補償契約の締結、土地賃貸借満了に伴う建物有償譲渡に向けた譲渡契約の締結、市場以外の機能(トイレ、会議室等)の継続利用検討等の課題がある。	【2年度】 ・市場廃止及び移転補償金について、市場事業者へ丁寧に説明し理解を得る必要がある。また、建物の有償譲渡に向けて関係者と詳細な調整を進める必要がある。
【3年度】 ・土地賃貸借契約満了に伴い建物を民間企業へ有償譲渡した。しかし、観光館案内所、公衆用トイレについては周辺からの要望もあり、継続利用することで合意。	【3年度】 ・民間企業による今後の建物活用については、基礎調査の結果及び審議会答申の内容をお伝えし、周辺の賑わいに資する施設となることを期待する。

今後の取り組み方針（関連・同種事業へのフィードバック等）

【30年度】 ・市場使用者の意見集約にあたっては、市場使用者へ個別ヒアリングを実施した上で意見の取りまとめを行った。 【元年度】 ・公設市場の円滑な終了に向けて、関係者の要望にも留意しながら意見の集約を図り、市の基本的考えに基づいた解決方法を示す。 【2年度】 ・各市場事業者に対して、各々の補償額算定調査結果を説明するとともに、市場の廃止時期や今後のスケジュール等具体的内容を伝えることで実感を伴った理解を図る。また、建物有償譲渡契約の締結に向けて、譲渡相手方、土地所有者等関係者との調整を密に行なうことで相互理解を図り、土地賃貸借の円滑な終了に努める。 【3年度】 ・基礎調査から始まり、審議会への諮問・答申、市場の廃止説明、移転補償調査など時間をかけ、関係者との合意を図ってきたことで、公設市場の廃止及び土地賃貸借契約満了に伴う建物有償譲渡等について円滑に進めることができた。

市町村名	那覇市						
沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【後年度発現事業】							
事業名	冷凍冷蔵コンテナ用電源整備事業 (H28(繰越)事業番号4-2)				沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-3-(4)-ア 臨港・臨空型産業の集積による国際物流拠 点の形成	
担当部課名	都市みらい部	都市計画課	事業実施 年度	平成 28	～平成 29	年度 沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ-1-(3)
事業内容	新港ふ頭の国際コンテナターミナルには、冷凍食品等低温輸送用コンテナのため既存のリーファー電源が設置されているが、年々増大している冷凍冷蔵コンテナ需要に対応するため、さらなる増設を行い、那覇港における取扱貨物量の増加を図る。 【施設概要】 リーファー電源 440V (2段×10口、1段×2口、計22口)						
実施方法	☐ 直接実施 ☐ 委託 ☒ 補助 ☐ 負担 ☐ その他()						
事業期間中 の予算額 ・執行額 【単位:千円】		H28年度	○年度	○年度	○年度	合計	
	A. 予算現額	19,819	—	—	—	19,819	
	B. 執行済額	16,778	—	—	—	16,778	
	うち 交付金充当額	13,422	—	—	—	13,422	
	執行率(%) (B/A)	84.7%	—	—	—	84.7%	
	執行状況の説明	・リーファー電源の設置箇所の選定に伴う調整に不測の時間を要したことから、19,819千円をH29年度に繰越した。 ・当初は、既存の電気室を増築し、リーファー電源の増設を行う予定であったが、既存の電気室の容量が22口分の増設まで対応可能であり、電気室の設計が不用となったため、予算に一部不用が生じた。					
事業期間中の 活動目標	活動目標(指標)		達成状況				
			H28年度	○年度	○年度	○年度	○年度
	リーファー電源及び電気室の実施設計の実施	目 標	実施設計の実施	—	—	—	—
		実 績	実施設計の実施	—	—	—	—
	リーファー電源10口設置工事の実施	目 標	10口	—	—	—	—
		実 績	22口	—	—	—	—
		目 標					
		実 績					
事業期間中の 成果目標	成果目標(指標)		進捗状況				
			H28年度	○年度	○年度	○年度	○年度
	リーファー電源及び電気室の実施設計完了	目 標	実施設計完了	—	—	—	—
		実 績	実施設計完了	—	—	—	—
	リーファー電源10口設置完了	目 標	10口設置完了	—	—	—	—
		実 績	22口設置完了	—	—	—	—
		目 標					
		実 績					

事業完了後の取り組み

成果目標(指標) □ 中期にわたる事業効果 ■ 後年度に発現する事業効果		達成／進捗状況					
		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度 目標/発現年度	
那覇港のリーファーコンテナの取扱貨物量の増加		目 標	－	－	－	－	76万トン
		実 績	70万トン	71万トン	75万トン	78万トン	81万トン (速報値)
		目 標					
		実 績					
事業完了後の 成果目標	状況説明	【H29年度】 ・那覇港におけるリーファーコンテナの取扱貨物量は増加している。					
		【H30年度】 ・那覇港におけるリーファーコンテナの取扱貨物量は増加している。					
		【R1年度】 ・那覇港におけるリーファーコンテナの取扱貨物量は増加している。					
		【R2年度】 ・那覇港におけるリーファーコンテナの取扱貨物量は増加している。 ・利用者より電圧調整(電圧を上げる)の要望があるため仕様変更を検討中。					
		【R3年度】 ・那覇港におけるリーファーコンテナの取扱貨物量(速報値)は増加している。					

【完了後】事業効果等の確認 （施設利用状況、効果発現状況、外部環境の変化等）	【完了後】改善措置等の検討 （事業効果の更なる向上等）
【H29年度】 ・那覇港におけるリーファーコンテナの取扱貨物量は、順調に推移している。 ・好調な沖縄経済を反映し、「製造食品」等の取扱貨物量が増加していることが一つの要因と考えられる。	【H29年度】 ・那覇港総合物流センターの整備を進め、取扱貨物量の増加を図る。
【H30年度】 ・那覇港におけるリーファーコンテナの取扱貨物量は増加している。 ・新港ふ頭地区に那覇港総合物流センターが次年度開業することに伴い、取扱貨物量は今後さらに増加していくものと見られる。	【H30年度】 ・那覇港総合物流センターを活用した集貨・創貨の取組促進のため、運営事業者による施設の運用状況を定期的にモニタリングしていく必要がある。
【R1年度】 ・那覇港におけるリーファーコンテナの取扱貨物量は増加している。 ・新港ふ頭地区に那覇港総合物流センターが開業した事などが増加の要因と考えられる。	【R1年度】 ・那覇港総合物流センターを活用した集貨・創貨の取組促進のため、運営事業者による施設の運用状況を定期的にモニタリングしていく必要がある。
【R2年度】 ・那覇港におけるリーファーコンテナの取扱貨物量は増加している。 ・新港ふ頭地区に那覇港総合物流センターがR1年度に開業した事などが増加の要因と考えられる。 ・リーファーコンテナの取扱量が増加したことで、電源プラグの増設要望がある。	【R2年度】 ・那覇港総合物流センターを活用した集貨・創貨の取組促進のため、運営事業者による施設の運用状況を定期的にモニタリング実施していくとともに、要望のある電源プラグの増設について、国庫補助等を含め、設置に向けた事業化を検討する必要がある。
【R3年度】 ・那覇港におけるリーファーコンテナの取扱貨物量は増加している。 ・新港ふ頭地区に那覇港総合物流センターがR1年度に開業した事などが増加の要因と考えられる。 ・リーファーコンテナの取扱量が増加したことで、電源プラグの増設要望がある。	【R3年度】 ・那覇港総合物流センターを活用した集貨・創貨の取組促進のため、運営事業者による施設の運用状況を定期的にモニタリングを実施する。 ・要望のある電源プラグの増設については、現在実施中の事業を活用することも含め、導入に向けた検討を行う必要がある。

今後の取り組み方針（関連・同種事業へのフィードバック等）

【H29年度】 ・引き続き那覇港総合物流センターの整備をすすめ、集貨・創貨による取扱貨物量の増加を図る。
【H30年度】 ・那覇港総合物流センターの開業後は、月に1度モニタリング会議により事業者の集貨・創貨計画の取組状況を確認し、必要に応じて指導・勧告を行う。
【R1年度】 ・今後毎月1度のモニタリング会議を継続し、事業者の集貨・創貨計画の取組状況を確認するとともに、必要に応じて指導・勧告を行う。
【R2年度】 ・今後毎月1度のモニタリング会議を継続し、事業者の集貨・創貨計画の取組状況を確認するとともに、電源プラグの増設の事業化に向けて検討を行っていく。
【R3年度】 ・今後毎月1度のモニタリング会議を継続し、事業者の集貨・創貨計画の取組状況を確認するとともに、電源プラグの増設については、現在実施中の事業を活用することも含め、導入の検討を行っていく。

市町村名	那覇市							
沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【後年度発現事業】								
事業名	那覇港(泊ふ頭)陸上電力供給施設整備事業 (R28(繰越)事業番号4-3)				沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-3-(1)-イ 臨港・臨空型産業の集積による国際物流拠 点の形成		
担当部課名	都市みらい部	都市計画課	事業実施 年度	平成 28	～平成 29	年度 沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ-1-(3)	
事業内容	離島航路の維持・改善及び離島振興に向けて、排出ガス削減、騒音抑制など良好な港湾環境の改善を図るため、泊ふ頭に陸上電力供給施設を整備した。 【施設概要】高圧受変電設備:3箇所(電源供給対象船舶)フェリーとかしき、フェリーざまみ、粟国フェリー 電圧:6600V 全出力:350kW 屋外型							
実施方法	☐ 直接実施 ☐ 委託 ☒ 補助 ☐ 負担 ☐ その他()							
事業期間中の 予算額・執行額 【単位:千円】		H28年度	○年度	○年度	○年度	合計		
	A. 予算現額	13,026	—	—	—	13,026		
	B. 執行済額	12,668	—	—	—	12,668		
	うち 交付金充当額	10,133	—	—	—	10,133		
	執行率(%) (B/A)	97.3%	—	—	—	97.3%		
	執行状況の説明	当該施設を利用する各船社との協議を踏まえ、受電設備の仕様を見直したことにより、不測の日数を要した。 また、当該施設の配置検討において関係者との調整に不測の日数を要したことから、12,264千円をH29年度に繰り越した。						
事業期間中の 活動目標	活動目標(指標)		達成状況					
				H28年度	○年度	○年度	○年度	○年度
	那覇港(泊ふ頭)陸上電力供給施設の実施設 計並びに整備工事の実施		目 標	実施	—	—	—	—
			実 績	実施	—	—	—	—
			目 標					
			実 績					
			目 標					
			実 績					
事業期間中の 成果目標	成果目標(指標)		進捗状況					
				H28年度	○年度	○年度	○年度	○年度
	陸上電力供給施設整備 3基		目 標	実施	—	—	—	—
			実 績	実施	—	—	—	—
			目 標					
			実 績					
			目 標					
			実 績					

事業完了後の取り組み

成果目標(指標)		達成／進捗状況				
		H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度 目標/発現年度
事業完了後の成果目録	☐ 中期にわたる事業効果 ☒ 後年度に発現する事業効果					
	観光客を受け入れる港として快適な環境が確保されていると感じるか(80%以上)を含め、船舶運航事業者へのアンケートを行い、本事業のあり方を検証する。	目 標	—	—	—	アンケート結果 「快適な環境が 確保されている」 (80%以上)
		実 績	未実施	未実施	未実施	83%
状況説明	【H29年度】 ・アンケートの内容及び実施方法について検討中。 【H30年度】 ・アンケートの内容及び実施方法について検討中。 【R1年度】 ・アンケートの内容及び実施方法について検討中。 【R2年度】 ・アンケートの内容及び実施方法について検討中。 【R3年度】 ・各船舶運航時行者へヒアリングを行った。陸電施設については、供給電圧の見直しや供給コンセンツの増設の要望が有り、施設の改善要望が確認された。					

【完了後】事業効果等の確認 (施設利用状況、効果発現状況、外部環境の変化等)	【完了後】改善措置等の検討 (事業効果の更なる向上等)
【H29年度】 ・対象船舶を利用する乗降客は増加傾向にある。 当該施設の設置にあたっては、事前に関係者とその仕様、及び設置場所について協議を行っていることから、快適な環境づくりに寄与しているものと考えられる。	【H29年度】 ・観光客を受け入れる港として快適な環境づくりを実現するためには、本事業に加えて、屋根付き歩道の整備や、多言語標識の整備等により観光客の更なる満足度向上を図る必要があることから、アンケートの内容、実施時期について今後検討を行う必要がある。
【H30年度】 ・対象船舶を利用する乗降客は引き続き増加傾向にある。 当該施設の設置にあたっては事前に関係者とその仕様、及び設置場所について協議を行っていることから、快適な環境づくりに寄与しているものと考えられる。	【H30年度】 ・泊ふ頭を利用する観光客の満足度向上に向けて、次年度以降、屋根付き歩道や多言語標識の整備を行うための事前準備を進めるとともに、アンケートの内容、実施時期について検討を行う。
【R1年度】 ・対象船舶を利用する乗降客は増加傾向にある。 当該施設の設置にあたっては事前に関係者とその仕様、及び設置場所について協議を行っていることから、快適な環境づくりに寄与しているものと考えられる。	【R1年度】 ・泊ふ頭において引き続き屋根付き歩道や多言語標識の整備を進めるとともに、令和2年度中のアンケート実施に向けて関係者と調整を行う。
【R2年度】 ・当該年度における対象船舶を利用する乗降客は新型コロナウイルス感染症の影響等により昨年度より減少した。 ・利用者より、当該施設の電圧が低く、安定供給のための改善要望がある。	【R2年度】 ・泊ふ頭においては、引き続き、屋根付き歩道等の整備を進めるとともに、新型コロナウイルス感染症対策を踏まえ、安全で快適な環境づくりに向けて検討する。 ・電圧調整の要望事項について、当該施設の調整の可否及び適切な電圧を確認の上、施設利用の改善を行う。
【R3年度】 ・当該年度における対象船舶を利用する乗降客は新型コロナウイルス感染症の影響等により昨年度より減少した。 ・利用者より、当該施設の電圧が低く、安定供給のための改善要望がある。 また、供給コンセントの増設要望がある。	【R3年度】 ・泊ふ頭においては、引き続き、屋根付き歩道等の整備を進めるとともに、新型コロナウイルス感染症対策を踏まえ、安全で快適な環境づくりに向けて検討する。 ・電圧調整等の要望事項について、当該施設の適切な電圧、利用形態を再確認の上、施設利用の改善を行う。

今後の取り組み方針（関連・同種事業へのフィードバック等）

【H29年度】 ・船舶運航事業者へ向けて実施するアンケートの内容及び実施方法について検討を行う。 【H30年度】 ・屋根付き歩道の整備や多言語標識の整備に向けた準備を進め、泊ふ頭地区における観光客の更なる満足度向上を図る。 【R1年度】 ・令和2年度中のアンケート実施に向けて、関係者との調整を実施する。 【R2年度】 ・屋根付き歩道等の整備や新型コロナウイルス感染対策を引き続き実施する。 ・令和3年度中のアンケート実施(利便性や燃料費のコスト縮減効果等)に向けて、関係機関と調整を進める。 ・要望のある当該施設の電圧調整について、調整の可否及び適切な電圧を確認の上、当該施設の利便性向上を図る。 【R3年度】 ・屋根付き歩道等の整備や新型コロナウイルス感染対策を引き続き実施する。 ・要望のある当該施設の電圧調整やコンセント増設について、適切な電圧、利用形態を再確認の上、当該施設の利便性向上を図る。

市町村名	那覇市						
沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【後年度発現事業】							
事業名	那覇港総合物流センター整備事業 (H28(繰越)事業番号4-1)				沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章－3－(4)－ア 臨空・臨港型産業の集積による国際物流拠 点の形成	
担当部課名	都市みらい部	都市計画課	事業実施 年度	平成 25	～平成 30	年度 沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ-1-(3)
事業内容	本県の生活・産業物資の輸送の大部分を担う港湾物流機能を改善し、従来型物流の高度化を図り、さらに付加価値型ものづくり産業の集積などの国際物流拠点の形成を図るため那覇港総合物流センターを整備する。						
実施方法	☐ 直接実施 ☐ 委託 ☒ 補助 ☐ 負担 ☐ その他()						
事業期間中 の予算額 ・執行額 【単位:千円】		～H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	合計	
	A. 予算現額	502,830	653,547	1,062,500	591,046	2,809,923	
	B. 執行済額	502,747	653,547	1,062,500	588,745	2,807,539	
	うち 交付金充当額	402,198	522,837	850,000	470,996	2,246,031	
	執行率(%) (B/A)	100.0%	100.0%	100.0%	99.6%	99.9%	
	執行状況の説明	・那覇港総合物流センターは当初計画通り平成30年度に整備完了し、令和元年5月から供用を開始した。					
事業期間中の 活動目標	活動目標(指標)		達成状況				
			～H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
	総合物流センター建設工事の実施	目 標	実施設計の実 施	基礎工事の着 手	基礎工事、躯体 工事の実施	躯体工事、設 備工事の実施	設備工事、外 装工事の実施
		実 績	実施設計の実 施	基礎工事の着 手	基礎工事、躯体 工事の実施	躯体工事、設 備工事の実施	設備工事、外 装工事の実施
		目 標					
		実 績					
		目 標					
		実 績					
事業期間中の 成果目標	成果目標(指標)		進捗状況				
			～H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
	那覇港総合物流センターの整備完了	目 標	実施設計の完了	ランプウェイ基礎 工の完了	物流センター基 礎工、ランプウ ェイ躯体工の完了	物流棟主要構造 部完成、受電設 備の設置	工事完了
		実 績	実施設計の完了	ランプウェイ基礎 工の完了	物流センター基 礎工、ランプウ ェイ躯体工の完了	物流棟主要構造 部完成、受電設 備の設置	工事完了
		目 標					
		実 績					
		目 標					
		実 績					

事業完了後の取り組み

成果目標(指標) ■ 中期にわたる事業効果 □ 後年度に発現する事業効果		達成／進捗状況					
		○年度	○年度	R元年度	R2年度	R3年度 目標/発現年度	
那覇港総合物流センターの取扱貨物量		目 標	—	—	77,910トン	83,834トン	95,256トン
		実 績	—	—	92,049トン	139,774トン	139,173トン (R4.2時点)
		目 標					
		実 績					
事業完了後の成果目標 状況説明	【R元年度】 ・那覇港総合物流センターの取扱貨物量は92,049トンであり、目標値(77,910トン)を達成した。						
	【R2年度】 ・那覇港総合物流センターの取扱貨物量は139,774トンであり、目標値(83,834トン)を達成した。						
	【R3年度】 ・那覇港総合物流センターの取扱貨物量は速報値(令和4年2月時点)で139,173トンであり、目標値(95,259トン)を達成する見込みである。						

【完了後】事業効果等の確認 (施設利用状況、効果発現状況、外部環境の変化等)	【完了後】改善措置等の検討 (事業効果の更なる向上等)
【R1年度】 ・那覇港総合物流センターを活用した集貨・創貨の取組により、初年度の目標取扱貨物量(77,910トン)は達成された。	【R1年度】 ・那覇港管理組合と那覇港総合物流センター運営企業間で開催する月次会議により、今後も適切な管理運営を行っていく必要がある。
【R2年度】 ・那覇港総合物流センターは供用開始後、2年連続で目標取扱貨物量(R2年度は83,834トン)を達成しており、取組は順調に進捗している。	【R2年度】 ・那覇港管理組合と那覇港総合物流センター運営企業間で開催する月次会議等のモニタリング体制の検討を行い、引き続き適切な管理運営を行っていく必要がある。
【R3年度】 ・那覇港総合物流センターは供用開始後、3年連続で目標取扱貨物量(R3年度は95,259トン)を達成しており、取組は順調に進捗している。	【R3年度】 ・那覇港管理組合と那覇港総合物流センター運営企業間で開催する月次会議及び年次モニタリング会議を実施し、引き続き適切な管理運営を行っていく必要がある。

今後の取り組み方針（関連・同種事業へのフィードバック等）

【R元年度】 ・那覇港管理組合と那覇港総合物流センター運営企業間で取扱貨物量の増加及び物流高度化に対する課題を共有し、適正な管理運営を継続することで、取扱貨物の増加に努める。
【R2年度】 ・新型コロナウイルス感染症拡大の影響を鑑みながら、那覇港管理組合と那覇港総合物流センター運営企業間で取扱貨物量の増加及び物流高度化等に対する課題を共有し、適正な管理運営を継続するとともに、取扱貨物の増加に向けた集貨・創貨に取り組む。
【R3年度】 ・新型コロナウイルス感染症拡大の影響を鑑みながら、那覇港管理組合と那覇港総合物流センター運営企業間で取扱貨物量の増加及び物流高度化等に対する課題を共有し、適正な管理運営を継続するとともに、取扱貨物の増加に向けた集貨・創貨に取り組む。

市町村名	那覇市						
沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【後年度発現事業】							
事業名	亜熱帯庭園都市の道づくり基礎調査事業 (H30事業番号1ー5)				沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ウ 観光客の受入体制の整備	
担当部課名	都市みらい部	道路建設課	事業実施 年度	平成 27	～平成 30	年度 沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ-1-(1)
事業内容	観光都市にふさわしい観光サービスの環境改善に向け、「人にやさしい道づくり」や「誰もが移動しやすい観光サービス道路の整備等」につなげていくための基礎調査を行う。						
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他()						
事業期間中の 予算額・執行額 【単位:千円】		H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	合計	
	A. 最終予算額	4,000	7,000	—	7,000	18,000	
	B. 執行済額	3,899	6,588	—	6,977	17,464	
	うち 交付金充当額	3,119	5,270	—	5,581	13,970	
	執行率(%) (B/A)	97.5%	94.1%	—	99.7%	97.0%	
	執行状況の説明	・最終的な執行率は97.0%となり、概ね計画通りに執行できた。残額は入札差額である。					
事業期間中の 活動目標	活動目標(指標)	達成状況					
			○年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
	現況路線の調査・評価を行い、道路環境改善のための整備基本方針を設定する。(H27:那覇・真和志地域、H28:首里・小禄地域、H30:那覇西・北地域)	目 標	—	2地域	2地域	—	2地域
		実 績	—	2地域	2地域	—	2地域
		目 標					
		実 績					
		目 標					
		実 績					
事業期間中の 成果目標	成果目標(指標)	進捗状況					
			○年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
	各地域における道づくり基礎調査の完了 (H27:那覇・真和志地域、H28:首里・小禄地域、H30:那覇西・北地域)	目 標	—	2地域	2地域	—	2地域
		実 績	—	2地域	2地域	—	2地域
		目 標					
		実 績					
		目 標					
		実 績					

事業完了後の取り組み

成果目標(指標)		達成／進捗状況					
		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R4年度 目標/発現年度	
事業完了後の 成果目標	☐ 中期にわたる事業効果 ☒ 後年度に発現する事業効果						
	供用開始後1年目(令和4年度)の目標を以下のとおりとする。本事業による整備した道路について、観光客へのアンケート調査等を実施し、安全・快適に移動できるか(80%以上)を含め、アンケート調査により、本事業の有り方を検証する。	目 標	—	—	—	80%以上	80%以上
		実 績	—	—	—		
		目 標					
		実 績					
	状況説明	【R1年度】 ・整備基本方針を策定し、その方針に基づき、選定された路線について整備の優先順位を決定した。					
【R2年度】 ・久茂地泊線の一部を整備した。							
【R3年度】 ・久茂地泊線・繁多川中央線の一部を整備した。							

【完了後】事業効果等の確認 (施設利用状況、効果発現状況、外部環境の変化等)	【完了後】改善措置等の検討 (事業効果の更なる向上等)
【R1年度】 ・令和4年度の供用開始に向けて、道路整備の事業化に向けて検討を行う。 【R2年度】 ・久茂地泊線の一部を整備したことにより「人にやさしい道づくり」や「誰もが移動しやすい観光サービス道路の整備等」ができた。 【R3年度】 ・久茂地泊線・繁多川中央線の一部を整備したことにより「人にやさしい道づくり」や「誰もが移動しやすい観光サービス道路の整備等」ができた。	【R1年度】 ・基本方針に基づき、路線ごとに適切な補助メニューの活用等を検討し、路線整備の事業促進を図る。 【R2年度】 ・予算を確保することにより、更なる観光都市にふさわしい道路整備に努める。 【R3年度】 ・予算を確保することにより、更なる観光都市にふさわしい道路整備に努める。

今後の取り組み方針（関連・同種事業へのフィードバック等）

【R3年度以降】
・優先順位の高い路線の整備に向けて、各関係部署・機関と調整を行い、円滑な設計・整備工事に努める。

市町村名	那覇市						
沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【後年度発現事業】							
事業名	景観まちづくり推進事業 (H30事業番号1-33)				沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章－1－(6)－ア 沖縄らしい風景づくり	
担当部課名	都市みらい部	都市計画課	事業実施 年度	平成 24	～平成 30	年度 沖縄振興基本方針 該当箇所	
事業内容	魅力ある那覇らしいまちづくりの推進に向けて、「亜熱帯庭園都市」那覇の個性を活かした美しい景観まちづくりと、地域(観光)資源である那覇らしい風景の保全、再生、創出を図り、景観形成を促進するため、土木構造物や公共建築物、公共サインにおけるデザインの発想と創意工夫の手助けとなる公共デザインマニュアルを作成し、地域の個性・特性を活かした那覇らしいまちづくりを推進する。						
実施方法	☒ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他()						
事業期間中の 予算額・執行額 【単位:千円】		～27年度	28年度	29年度	30年度	合計	
	A. 予算現額	89,488	8,640	0	7,236	105,364	
	B. 執行済額	85,893	8,543	0	7,236	101,672	
	うち 交付金充当額	68,712	6,834	0	5,788	81,334	
	執行率(%) (B/A)	96.0%	98.9%	0.0%	100.0%	96.5%	
	執行状況の説明	・最終的な執行率は96.5%となり、概ね計画的に執行できた。					
事業期間中の 活動目標	活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	30年度
	建築物及び工作物、屋外広告物のデザインマニュアルの検討等	目 標	各種計画(案)の作成及び説明板の設置	活用計画案及び協定基準案の作成	屋外広告物の基礎調査及び実態調査の実施	建築物及び工作物、屋外広告物のデザインマニュアルの検討	—
		実 績	各種計画(案)の作成及び説明板の設置	活用計画案及び協定基準案の作成	屋外広告物の基礎調査及び実態調査の実施	建築物及び工作物、屋外広告物のデザインマニュアルの検討を実施	—
	公共デザインマニュアルの検討	目 標	—	—	—	—	公共デザインマニュアル案の検討
		実 績	—	—	—	—	公共デザインマニュアル案の検討を実施
事業期間中の 成果目標	成果目標(指標)		進捗状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	30年度
	土木構造物や公共施設、公共サインにおけるデザインの発想と創意工夫の手助けとなる公共マニュアル案の作成等	目 標	各種計画(案)の作成及び説明板の設置	活用計画案及び協定基準案の作成	屋外広告物誘導案及び規制誘導手法案の作成	魅力的な街なみへの誘導及び創出を図るためのデザインマニュアルの作成	—
		実 績	各種計画(案)の作成及び説明板の設置	活用計画案及び協定基準案の作成	屋外広告物誘導案及び規制誘導手法案の作成	魅力的な街なみへの誘導及び創出を図るためのデザインマニュアルの作成完了	—
	公共デザインマニュアルの検討	目 標	—	—	—	—	那覇らしい都市景観の向上を図るためのデザインマニュアル案の作成
		実 績	—	—	—	—	那覇らしい都市景観の向上を図るためのデザインマニュアル案の作成完了
		目 標					
		実 績					

事業完了後の取り組み

事業完了後の成	成果目標(指標)		達成／進捗状況				
	□ 中期にわたる事業効果 ■ 後年度に発現する事業効果		R1年度	R2年度	R3年度 目標/発現年度	○年度	○年度 目標/発現年度
	公共デザインマニュアルを活用し整備した施設周辺において、観光客へのアンケート調査等を実施し、観光地の景観としてふさわしいデザインであると感じるか(80%以上)を含めアンケート調査を行う。	目 標	公共デザインマニュアルの合意形成	公共デザインマニュアル活用による設計調整開始	80%以上	—	—
		実 績	HPへの掲載及び関係機関へ合意形成を図った上、マニュアル配布を実施	公共デザインマニュアル活用による設計調整開始 (調整件数:4件)	81.0%	—	—
		目 標					
		実 績					

狀況說明

【R1年度】
・公共デザインマニュアルの市ホームページへの掲載、庁内関係部署及び関係機関等への配布を行い周知を図った。

【R2年度】
・公共デザインマニュアルを活用した設計調整を行い、土木構造物や公共施設、公共サインの施設整備を行った。

【R3年度】
・公共デザインマニュアルを活用した設計調整を行い、土木構造物や公共施設、公共サインの施設整備を行った。

【完了後】事業効果等の確認
(施設利用状況、効果発現状況、外部環境の変化等)

【完了後】改善措置等の検討
(事業効果の更なる向上等)

【R1年度】
・次年度より公共デザインマニュアルを活用した土木構造物や公共施設、公共サイン等の設計調整及び相談が増えることが見込まれる。

【R2年度】
・公共デザインマニュアルの活用した設計調整を行い、景観に配慮した施設整備が行われた。（調整件数：4件、整備件数：3件）今後も設計調整及び相談が増えることが見込まれる。

【R3年度】
・公共デザインマニュアルの活用した設計調整を行い、景観に配慮した施設整備が行われた。（調整件数：7件、整備件数：5件）

【R1年度】
・公共デザインマニュアルの活用促進を図るため、効果的な情報発信に努める。

【R2年度】
・公共デザインマニュアルの活用促進を図るため、効果的な情報発信に努めるとともに、具体的な活用方法について、周知を図る。

【R3年度】
・公共デザインマニュアルの活用促進を図るため、効果的な情報発信に努めるとともに、具体的な活用方法について、周知を図る。

今後の取り組み方針（関連・同種事業へのフィードバック等）

【R1年度】
・HP掲載を継続し公共マニュアルの周知を図り、土木構造物や公共施設、公共サイン等の設計調整及び相談時には、当該マニュアルを提示し調整を行う。

【R2年度】
・HP掲載を継続し公共マニュアルの周知を図り、土木構造物や公共施設、公共サイン等の設計調整及び相談時には、当該マニュアルを提示し調整を行う。また、庁内研修を行いマニュアル活用の呼びかけを図る。

【R3年度】
・HP掲載を継続し公共マニュアルの周知を図り、土木構造物や公共施設、公共サイン等の設計調整及び相談時には、当該マニュアルを提示し調整を行う。また、庁内研修を行いマニュアル活用の呼びかけを図る。

市町村名	那覇市						
沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【後年度発現事業】							
事業名	「なはでナイト」開発事業 (R1事業番号1ー28)				沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章ー3ー(2)ーア 国際的な沖縄観光ブランドの確立	
担当部課名	経済観光部	観光課	事業実施 年度	令和 1	～令和 1	年度 沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲー1ー(1)
事業内容	本市における観光客の活動時間の延長、市内消費機会の増加を図るため、夜型観光エンターテインメントの創出・発信に向けた事前調査業務を実施する。						
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他()						
事業期間中の 予算額・執行額 【単位:千円】		R1年度	○年度	○年度	○年度	合計	
	A. 予算現額	6,000	ー	ー	ー	6,000	
	B. 執行済額	5,700	ー	ー	ー	5,700	
	うち 交付金充当額	4,560	ー	ー	ー	4,560	
	執行率(%) (B/A)	95.0%	ー	ー	ー	95.0%	
	執行状況の説明	プロポーザル審査により事業者を決定。3月31日付で業務完了報告(実績報告)があり、検査した結果、滞りなく遂行され完了したことを確認した。					
事業期間中の 活動目標	活動目標(指標)	達成状況					
			R1年度	○年度	○年度	○年度	○年度
	ア.現状調査 イ.定性調査 ウ.マーケティング調査 エ.その他調査	目 標	実施	ー	ー	ー	ー
		実 績	実施	ー	ー	ー	ー
		目 標					
		実 績					
		目 標					
		実 績					
事業期間中の 成果目標	成果目標(指標)	進捗状況					
			R1年度	○年度	○年度	○年度	○年度
	なはでナイト」調査報告書の作成	目 標	実施	ー	ー	ー	ー
		実 績	実施	ー	ー	ー	ー
		目 標					
		実 績					
		目 標					
		実 績					

事業完了後の取り組み								
事業完了後の成果目標	成果目標(指標)		達成／進捗状況					
	☐ 中期にわたる事業効果 ☒ 後年度に発現する事業効果			R2年度	R3年度 目標/発現年度	○年度	○年度	○年度 目標/発現年度
	【R3成果指標】 観光客の市内ナイトコンテンツに対する満足度調査を実施し、満足度80%以上を目指す。		目 標	80%以上	80%以上	—	—	—
			実 績	—	88.4%	—	—	—
			目 標					
実 績								
状況説明 【R2年度】 ・満足度を測定するための観光入込統計調査を新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け実施していないため測定できていない。 【R3年度】 ・那覇市観光入込統計調査における「Qナイトコンテンツの満足度」において「満足(43.8%)」「やや満足(44.6%)」合わせて88.4%が満足していると回答があった。 【 年度】 ・								
【完了後】事業効果等の確認 (施設利用状況、効果発現状況、外部環境の変化等)			【完了後】改善措置等の検討 (事業効果の更なる向上等)					
【R2年度】 ・調査事業完了直後から新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け始めた。 ・夜間外出自粛などの要請が発出され、夜型観光の推進は困難な状況である。 【R3年度】 ・R2年度に続き、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により夜型観光の推進は厳しい状況にある。 【 年度】 ・			【R2年度】 ・コロナ禍前の状況では、コンテンツ単体ではなくエリアとしての情報発信、インパウンドへの集客苦慮、集客に向けた夜間の公共交通の強化が夜型観光推進に求められる。 【R3年度】 R1年度実施の調査で得られた①外国人観光客の集客、②個のコンテンツ(回遊性・発信力)の限界という課題と新型コロナ拡大の影響により生じた、密を避ける行動など旅行スタイルの変化に対応した観光コンテンツ開発が必要である。 【 年度】 ・					
今後の取り組み方針 (関連・同種事業へのフィードバック等)								
【R2年度】 ・調査結果で得られた改善点にコロナ禍による旅行スタイルの変化等を踏まえて夜型観光推進の在り方を検討する。 【R3年度】 ・調査結果で得られた課題に対してコンテンツの磨き上げ(①)、地域内の事業者が連携したコンテンツ創出(②)、及び、旅行スタイルの変化を踏まえた時間・場所の分散化に繋がる観光コンテンツ造成や地域周遊を促す事業者の取組を支援する。 【 年度】 ・								

市町村名	那覇市						
沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【後年度発現事業】							
事業名	地下壕対策事業(R2事業番号12-1)				沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-2-(4)-イ 災害に強い県土づくりと防災体制の強化	
担当部署名	まちなみ共創部	まちなみ整備課	事業実施 年度	平成 24	令和 3	年度 沖縄振興基本方針 該当箇所	
事業内容	地下壕に起因する事故の危険性を軽減させるため、危険性のある地下壕の埋め戻し等の対策を行う。						
実施方法	■ 直接実施 □ 委託 □ 補助 □ 負担 □ その他()						
事業期間中の 予算額・執行額 【単位:千円】		～H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	合計	
	A. 予算現額	124,750	2,540	416	1,925	129,631	
	B. 執行済額	74,856	2,523	354	1,902	79,635	
	うち 交付金充当額	59,883	2,018	282	1,524	63,707	
	執行率(%) (B/A)	60.0%	99.3%	85.1%	98.8%	61.4%	
	執行状況の説明	令和3年度工事を年度内に執行した。不要額23千円生じているが、実績による残額であり事業については、計画とおりに行われた。					
事業期間中の 活動目標	活動目標(指標)	達成状況					
			H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度
	地下壕対策工事の着手	目 標	地下壕埋戻 実施1箇所	地下壕埋戻 実施1箇所	地下壕埋戻 実施1箇所	地下壕埋戻 実施1箇所	地下壕埋戻 実施1箇所
		実 績	地下壕埋戻 実施1箇所	地下壕埋戻 実施1箇所	地下壕埋戻 実施1箇所	地下壕埋戻 実施1箇所	地下壕埋戻 実施1箇所
		目 標					
		実 績					
事業期間中の 成果目標	成果目標(指標)	進捗状況					
			H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度
	地下壕対策工事の完了	目 標	1箇所	1箇所	1箇所	1箇所	1箇所
		実 績	1箇所	1箇所	1箇所	1箇所	1箇所
	対策を実施した地下壕での事故発生件数 0 件	目 標	0件	0件	0件	0件	0件
		実 績	0件	0件	0件	0件	0件
	目 標						
	実 績						

事業完了後の取り組み								
事業完了後の成果目標	成果目標(指標)		達成／進捗状況					
	☐ 中期にわたる事業効果 ☒ 後年度に発現する事業効果			R4年度	○年度	○年度	○年度	○年度 目標/発現年度
	対策を実施した地下壕での事故発生件数 0 件		目 標	0件	—	—	—	—
			実 績		—	—	—	—
			目 標					
			実 績					
状況説明	【R4年度】 ・事業開始から対策を実施した地下壕での事故発生件数は0件であるため、事故の危険性軽減に繋がっている。 【 年度】 ・ 【 年度】 ・							
【完了後】事業効果等の確認 (施設利用状況、効果発現状況、外部環境の変化等)				【完了後】改善措置等の検討 (事業効果の更なる向上等)				
【R4年度】 ・対策を実施した地下壕での事故発生件数が0件であることから、地下壕の危険度軽減効果が期待できる。 【 年度】 ・ 【 年度】 ・				【R4年度】 ・土地所有者との連絡体制を構築し、状況把握に努める。 【 年度】 ・ 【 年度】 ・				
今後の取り組み方針(関連・同種事業へのフィードバック等)								
【R4年度】 ・対策を実施した箇所において、不具合などが確認された際、土地所有者から情報提供を行えるよう連絡体制の構築に努める。 【 年度】 ・ 【 年度】 ・								

市町村名	那覇市						
沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【後年度発現事業】							
事業名	観光協会ホームページ強化事業 (R1事業番号1ー27)				沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章ー3ー(2)ーウ 観光客受入体制の整備	
担当部課名	経済観光部	観光課	事業実施 年度	令和 元	～ 令和 元	年度 沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲー1ー(1)
事業内容	那覇市観光協会HPのリニューアルを行い、誘客効果と観光客の那覇市内での滞在時間の延長及び市内消費額の増加、安心安全に繋がる情報を提供する。						
実施方法	☐ 直接実施 ☐ 委託 ☒ 補助 ☐ 負担 ☐ その他()						
事業期間中の 予算額・執行額 【単位:千円】		令和元年度	○年度	○年度	○年度	合計	
	A. 予算現額	2,700	ー	ー	ー	2,700	
	B. 執行済額	2,700	ー	ー	ー	2,700	
	うち 交付金充当額	2,160	ー	ー	ー	2,160	
	執行率(%) (B/A)	100.0%	ー	ー	ー	100.0%	
	執行状況の説明	事業報告書、収支決算書等を精査し、事業費が適正に執行されていることを確認した。					
事業期間中の 活動目標	活動目標(指標)	達成状況					
			R1年度	○年度	○年度	○年度	○年度
	観光協会ホームページの強化構築に対する 支援	目 標	支援	ー	ー	ー	ー
		実 績	支援	ー	ー	ー	ー
		目 標					
		実 績					
事業期間中の 成果目標	成果目標(指標)	進捗状況					
			R1年度	○年度	○年度	○年度	○年度
	観光協会ホームページの強化構築	目 標	強化構築	ー	ー	ー	ー
		実 績	強化構築	ー	ー	ー	ー
		目 標					
		実 績					
		目 標					
		実 績					

事業完了後の取り組み

成果目標(指標)		達成／進捗状況					
			R2年度	R3年度	○年度	○年度	○年度 目標/発現年度
事業完了後の成果目標	☐ 中期にわたる事業効果 ☒ 後年度に発現する事業効果						
	ページビュー月平均約21万件	目 標	210,000件	210,000件	—	—	—
		実 績	38,500件	33,902件	—	—	—
	ページ閲覧者へアンケート調査を実施し、利便性が確保されたか(80%以上)を含め、アンケート調査により本事業のあり方を検証する。	目 標	満足度80%以上	満足度80%以上	—	—	—
		実 績	未実施	78%	—	—	—
	状況説明	【R2年度】 ・月平均ページビューが目標値を大幅に下回った要因として、新型コロナウイルス感染症拡大により観光需要が大幅に減少したことが要因の一つと考えられる。 ・R2年度にアンケート調査未実施となった要因として、那覇市観光協会との認識の相違によりアンケート内容が不十分であり、成果目標の効果検証を行える内容ではなかったことが挙げられる。R3年度はアンケート内容を改め、リンク先もわかりやすい位置に修正を行った。					
【R3年度】 ・月平均ページビューが目標値を大幅に下回った要因として、長引くコロナ禍の影響により引き続き観光需要が低迷していること、イベントの中止や延期により、ホームページに掲載する情報が少なかったことが考えられる。 ・アンケートについては回答しやすいよう簡素な内容でホームページのわかりやすい位置にリンクを設定したが、僅かに目標値に達することは出来なかった。							
	【 年度】 ・						

【完了後】事業効果等の確認 (施設利用状況、効果発現状況、外部環境の変化等)	【完了後】改善措置等の検討 (事業効果の更なる向上等)
【R2年度】 ・ホームページ閲覧者の減少は、コロナ禍の影響により観光需要が減少したことも要因と考えられる。 【R3年度】 ・長引くコロナ禍の影響による観光需要低迷に加え、本市で毎年実施している大規模イベントが中止や延期となり、ホームページ上への情報掲載や更新頻度が少なかったことが目標値を達成できなかった要因と考えられる。 【 年度】 ・	【R2年度】 ・ホームページを多くの方に閲覧してもらうためにも、有用でわかりやすい情報発信について引き続き工夫が必要となる。 【R3年度】 ・ホームページの利便性を検証し、閲覧者にとって有用なサイト運営に引き続き努める。 【R4年度】 ・アンケートでは情報の少なさや更新頻度の低さに対する意見を受けた。イベント情報のみでなく、コロナ禍においても有用な情報提供ができるよう、引き続きサイト運営に取り組む。

今後の取り組み方針（関連・同種事業へのフィードバック等）

【R2年度】 ・幅広い年齢層に有用でわかりやすい情報発信を出来るよう、情報の更新度やレイアウトの見直しなど、見やすく最新の情報を発信するホームページ運営に引き続き努める。
【R3年度】 ・ホームページ閲覧者へ利便性に関するアンケートを実施し、届けられた意見等を参考にしながら利便性の高いホームページとなるよう引き続き取り組む。
【R4年度】 ・わかりやすく最新の情報を提供できるよう、サイト運営に引き続き取り組む。

市町村名	那覇市						
沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【後年度発現事業】							
事業名	貸切バス乗降場・待機場整備事業 (H30(繰越)事業番号1ー36)				沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-イ 観光客受入体制の整備	
担当部課名	経済観光部	観光課	事業実施 年度	平成 30	～平成 31	年度 沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ-1-(1)
事業内容	貸切バスの国際通り周辺での路上駐車による交通混雑の緩和を図る。						
実施方法	■ 直接実施 ■ 委託 □ 補助 □ 負担 □ その他()						
事業期間中 の予算額 ・執行額 【単位:千円】		H30年度	○年度	○年度	○年度	合計	
	A. 予算現額	43,528	—	—	—	43,528	
	B. 執行済額	34,077	—	—	—	34,077	
	うち 交付金充当額	27,261	—	—	—	27,261	
	執行率(%) (B/A)	78.3%	—	—	—	78.3%	
	執行状況の説明	・H30年度は沖縄県との合意書締結の調整に不測の日数を要し、想定外の基本設計業務に係る手続き等により、年度内の事業完了が困難となったため繰越を行った。 不用額は、当初想定していた工事請負費について、仕様・数量の変更等による予定価格の減額と、落札差額(約90.5%)による入れ執行残である。					
事業期間中の 活動目標	活動目標(指標)		達成状況				
			H30年度	H31年度	○年度	○年度	○年度
	乗降場・待機場の整備 ①舗装工事 ②機械設備工事	目 標	土質調査、磁気探査、 実施設計、舗装工事 の実施	土質調査、磁気探査、 実施設計、舗装工事 の実施	—	—	—
		実 績	土質調査、磁気探査、 実施設計、舗装工事 の完了	土質調査、磁気探査、 実施設計、舗装工事 の完了	—	—	—
		目 標					
		実 績					
		目 標					
		実 績					
事業期間中の 成果目標	成果目標(指標)		進捗状況				
			H30年度	H31年度	○年度	○年度	○年度
	県庁北口付近及び牧志駅付近への貸切バス の一日平均流入台数:2割減	目 標	2割減	2割減	—	—	—
		実 績	調査未実施	調査未実施	—	—	—
		目 標					
		実 績					
		目 標					
実 績							

事業完了後の取り組み								
事業完了後の成果目標	成果目標(指標)		達成／進捗状況					
	☐ 中期にわたる事業効果 ☒ 後年度に発現する事業効果			R2年度	R3年度	○年度	○年度	○年度 目標/発現年度
	県庁北口付近及び牧志駅付近への貸切バスの一日平均流入台数:2割減		目 標	2割減	2割減	—	—	—
			実 績	調査未実施	調査未実施	—	—	—
			目 標					
実 績								
状況説明	【R2年度】 ・貸切バス乗降場の供用開始と同時期に、新型コロナウイルス感染症の影響により国内外の観光客が激減している。貸切バスの利用自体も激減している状況が続いているため、台数計測による検証ができる状況にないことから、旅行需要の回復後に計測を実施する。 【R3年度】 ・長引くコロナ禍の影響による観光需要低迷により、貸切バスの利用自体も少ない状況が続いている。台数計測による検証ができる状況にないことから、旅行需要の回復後に計測を実施する。 【 年度】 ・							
【完了後】事業効果等の確認 (施設利用状況、効果発現状況、外部環境の変化等)				【完了後】改善措置等の検討 (事業効果の更なる向上等)				
【R2年度】 ・昨今の新型コロナウイルス感染症の影響により、国内外観光客の激減し、貸切バス利用自体も激減している状況が続く、台数計測による検証ができる状況にない。 【R3年度】 ・R2年度と同様、新型コロナウイルス感染症の影響による国内外の観光客数の減少は続いており、貸切バスの利用も低迷。依然、台数計測による検証ができる状況にない。 【 年度】 ・				【R2年度】 ・今後、新型コロナウイルス感染症の収束状況をみながら、観光需要の回復にあわせ、旅行会社及びバス会社等各関連団体と連携し、乗降場の周知及び利用促進を図る。 【R3年度】 ・引き続き、新型コロナウイルス感染症の収束状況をみながら、観光需要の回復にあわせ、旅行会社及びバス会社等各関連団体と連携し、乗降場の周知及び利用促進を図る。 【 年度】 ・				
今後の取り組み方針(関連・同種事業へのフィードバック等)								
【R2年度】 ・今後、新型コロナウイルス感染症の収束状況をみながら、観光需要の回復にあわせ、旅行会社及びバス会社等各関連団体と連携し、乗降場の周知及び利用促進を図る。 【R3年度】 ・引き続き、新型コロナウイルス感染症の収束状況をみながら、観光需要の回復にあわせ、旅行会社及びバス会社等各関連団体と連携し、乗降場の周知及び利用促進を図る。 【 年度】 ・								

市町村名	那覇市							
沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【後年度発現事業】								
事業名	なは産業支援センター機能強化事業(駐車場整備) (H28、H29(繰越)事業番号3-9)				沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-3-(3)-イ 情報通信関連産業の立地促進		
担当部署名	経済観光	商工農水課	事業実施 年度	平成 28	~平成 30	年度 沖縄振興基本方針 該当箇所	Ⅲ-1-(7)	
事業内容	本市の産業振興を支える企業の育成支援施設「なは産業支援センター」の機能として不足している駐車場(自走式駐車場)の機能拡充を計る。 H28年度:基本設計等、H29年度:実施設計、H30年度建設、H31年3月供用開始							
実施方法	■ 直接実施 ■ 委託 □ 補助 □ 負担 □ その他()							
事業期間中の 予算額・執行額 【単位:千円】		H28年度	H29年度	○年度	○年度	合計		
	A. 予算現額	9,644	14,632	—	—	24,276		
	B. 執行済額	7,289	9,877	—	—	17,166		
	うち 交付金充当額	5,830	7,901	—	—	13,731		
	執行率(%) (B/A)	75.6%	67.5%	—	—	70.7%		
	執行状況の説明	平成29年度において実施設計を進めていくなかで、土質調査を実施する必要があることが確定したため、土質調査に係る委託料を減額補正した。						
事業期間中の 活動目標	活動目標(指標)		達成状況					
				H28年度	H29年度	○年度	○年度	○年度
	基礎調査及びプランニングの実施 (整備位置、施設規模など)	目 標	基礎調査及びプランニング	—	—	—	—	
		実 績	土地調査・用地測量の実施	—	—	—	—	
	実施設計	目 標	—	完了	—	—	—	
		実 績	—	完了	—	—	—	
		目 標						
		実 績						
事業期間中の 成果目標	成果目標(指標)		進捗状況					
				H28年度	H29年度	○年度	○年度	○年度
	基礎調査およびプランニングの完了	目 標	完了	—	—	—	—	
		実 績	完了	—	—	—	—	
	実施設計書の作成完了	目 標	—	完了	—	—	—	
		実 績	—	完了	—	—	—	
		目 標						
		実 績						

事業完了後の取り組み

成果目標(指標) □ 中期にわたる事業効果 ■ 後年度に発現する事業効果		達成／進捗状況					
		R元年度	R2年度	R3年度	○年度	○年度 目標/発現年度	
事業完了後の成果目標	駐車場が整備されたことにより利便性が確保されたか(80%)以上を含め、アンケート調査により本事業の在り方を検証する。	目 標	80.0%	80.0%	80.0%	—	—
		実 績	供用開始延期となったため未実施	コロナ感染症の影響により未実施	コロナ感染症の影響により未実施	—	—
		目 標					
		実 績					
状況説明	【H30年度】 当初、平成30年度中に供用開始だったが、令和元年11月に延期になった。 【令和元年度】 建築資材(高力ボルト)が全国的に需給逼迫のため工程を見直すことになり、工期を延長し、令和2年3月より供用を開始した。供用開始が延期となったため、事後評価はR2年度末に実施する。 【令和2年度】 供用開始から1年となる令和3年3月にアンケート実施の予定であったが、コロナ禍にあって外出・イベント等の自粛が続いており利用は低迷しており、駐車場整備前と状況が大きく異なることから、評価は次年度に実施する。 【令和3年度】 依然として外出・イベント等の自粛が続いており、利用は低迷したままとなっている。駐車場整備前と状況が大きく異なり、アンケート調査の実施や評価が困難であった。時期や方法、設問等に工夫して令和4年度に調査を実施する。						
【完了後】事業効果等の確認 (施設利用状況、効果発現状況、外部環境の変化等)		【完了後】改善措置等の検討 (事業効果の更なる向上等)					
【R元年度】 令和2年3月より供用を開始しているが、新型コロナの影響による国の緊急事態宣言による外出・イベント開催自粛によりは産業支援センター及び周辺施設利用も激減しており、想定よりもかなり少ない利用となっている。		【R元年度】 年度中の供用期間が1か月と短いこと、コロナの影響が大きいことなどから、実際のニーズを把握することが難しいため、次年度以降に状況把握を行う。					
【R2年度】 供用開始以降コロナ禍にあり、整備前後を比較するアンケートの実施について状況が大きく異なることから比較が困難となっている。		【R2年度】 前年同様コロナの影響が大きく改善状況の把握は困難であるため、状況把握は次年度に延期する。					
【R3年度】 供用開始以降コロナ禍にあり、整備前後を比較するアンケートの実施について状況が大きく異なることから比較が困難となっている。		【R3年度】 前年同様コロナの影響が大きく改善状況の把握は困難であるため、状況把握は次年度に延期する。					
今後の取り組み方針(関連・同種事業へのフィードバック等)							
【R元年度】 コロナの影響によりニーズを把握することが難しいため、次年度以降に状況把握し、対応を検討する。							
【R2年度】 コロナの影響により施設利用者が減少している状況が続いており、状況把握は次年度持越し、成果目標の指標の変更も含めて対応を検討する。							
【R3年度】 コロナの影響により施設利用者が当初想定より低迷している状況が続いており、調査は次年度に持ち越し、時期や方法、設問等を工夫したうえでアンケート調査を実施し、整備後の効果について比較できる範囲で検証を行う。							